

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	工学院大学	整理番号	1-1-058
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	産学連携型の新しい工学教育プログラム --ECP (Engineering Clinic Program)--		
申請単位	学部単位		
申請担当者	古屋 興二		
<p>(取組の概要)</p> <p>工学院大学では社会・時代の要請に応じた実践力・応用力を持ったエンジニアを育成する「産学連携型の新しい工学教育プログラム」を 1997 年度にスタートさせた。従来の知識力に加えて人間力を兼ね備えることがグローバルエンジニアの必須条件であるとし、特に後者では創造力、マネジメント力を教育するために企業と連携した教育プログラム、即ち ECP を創設した。ECP では企業から生きたテーマと専門技術者（リエゾン）を提供してもらう。学生は 3・4 年次の 2 年間を使い、テーマの理解から計画、解決まで全てを自分の力で実施。そのプロセスを経験することにより自分で考える力、創造力、マネジメント力などの人間力を養う。これまで ECP の教育を受けて卒業した学生の企業からの評価は極めて高く就職はほぼ 100%、また学生自身の満足度も高い。本プログラムは日本初の JABEE の認定を受けるための中核的な役割を果たした。また「ECP」は他大学でも十分参考になるものと考え、他大学とのコンソーシアムの設立も準備中である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、工学院大学工学部の教育目的・教育方針である「国際的に活躍できるエンジニアの育成」を実現するため、学部教授会の審議を経て、1997 年から開始され、1999 年からは国際基礎工学科を設置して、実施されてきているものです。導入教育、エンジニアの論理、産学連携型の新しい工学教育プログラムを立て、そのテーマを企業から求められる等、新しい工学教育の技法が積極的に取り入れられていることは特色があります。しかし、リーダーシップの人間力の育成を大学でなく企業の手に乗せている点は問題であり、またこのプログラムに参加できる学生の数は学部在籍学生の 100 分の 1 強となっていること、そもそもこの取組は受講する学生の指導にあたる教員、企業のスタッフに多大な労力の負担を余儀なくするものであることからして、収容定員数の多い大学で普遍的な教育機能を果たしうるものかという点に疑問が残ります。</p>			